

整理番号	香水 1	高松中心街 2 万 2 千戸高潮水害							
災害種別	水害・治水	地震・津波	土砂災害	湧水・利水					
場 所	香川県高松市福岡町 4 丁目								
見所・アクセス	平成 16 年 8 月の台風 16 号では、激しい雨と大潮の満潮が重なり高松市を中心に、床上・床下浸水が約 2 万 2 千戸が高潮水害を被りました。これまで記録されていた最高潮位を 50 センチメートルを超える約 T.P2.5m に達しました。高松市扇町 3 丁目の道路の電柱には、その時に浸水位が表示されています。								
写真・図					写真 1	写真 2	写真 3	写真 4	
解説文	<p>平成 16 年（2004）8 月の台風 16 号では、激しい雨と大潮の満潮が重なり、記録的な高潮が香川県沿岸の各地を襲い、住宅などの建物は浸水被害に見舞われました。高松港では観測 1 史上最高の 2.46m の潮位を記録するなど、県内各地で最高潮位を更新しました。この結果、写真 1 のように高松市を中心に、床上・床下浸水が約 22000 戸と戦後最大となりました。この災害で、多くの方が高松市など瀬戸内海沿岸部の土地が高潮に弱い大地であることを認識し防災を考えるきっかけになりました。その高潮の浸水被害は、写真 2 に示す、戦後、米軍が撮影した高松市の航空写真に浸水エリアを比較したもことから、塩田跡地などの土地の低い場所が浸水していることがわかります。現在、住んでいる場所が元々どのような土地であったか知るためにも、先祖帰りの視点 自分が住んでいる本当の地形を知ることが必要であります。また写真 3、4 の扇町には、平成 16 年高潮浸水高を電柱に表示した状況を示します。</p> <p>四国防災八十八話の 80 話では平成 16 年（2004）は古来稀にみる年で、台風が日本に 10 個、四国には 6 個も上陸し、瀬戸内海側の香川県、愛媛県でも大きな被害を受けました。中でも台風 16 号の際には、香川県においては台風通過が大潮の満潮時刻と重なったため、これまで記録されていた最高潮位を 50 センチメートルを超える未曾有の高潮が発生し、高松の中心街など約 2 万 2000 戸が浸水しました。その時、消防署員として救出活動に携わった人の証言が紹介されています。「台風 16 号では警報発令後、日新小学校区へ急行しました。その時の光景は忘れられません。「なぜこんなことが」と思うほど壮絶で、道路を水が流れる中、現状確認に行こうとしますが、手すりにつかまっても足元がすくわれて押し戻される状態でした。各家庭を回って小さなお子さんやお年寄りを抱えて安全なところまで誘導するにも深夜で何も見えず、危険でした。一軒一軒確認しながら取り残された人たちを救助するのは、とにかく時間がかかります。消防では太刀打ちできない災害があることを実感しました。大災害になればなるほど被害は甚大で、すぐに救助に向かえない場合もあります。どの家に取り残された人がいるかという情報があるかないかで、救助までのスピードが違います。被害を最小限に抑えるために、また二次三次の被害を招かないために、地域と連携をとっていかねばと痛感しました。」と語っています。</p>								
得られる教訓	消防だけでは太刀打ちできない高潮災害で、被害軽減のため、地域と消防などが連携を図ることを教えています。								
教訓分類	被害防止	準備	災害対応	復旧・復興	自助	共助	公助	ハード	ソフト
時代	江戸時代以前	江戸時代	明治・大正	昭和 30 年代まで	昭和 60 年代まで	平成以降			

整理番号	香水 2	大禹謨（だいうぼ）							
災害種別	水害・治水	地震・津波	土砂災害	渇水・利水					
場 所	香川県高松市香川町大野								
見所・アクセス	香川県高松市が誇る名園、栗林公園の商工奨励館の中庭に『大禹謨』と達筆で書かれた縦 58cm 横 20cm の石碑があります。これは、いまから約 380 年前、寛永の頃までは香川郡大野の西（香川県立香川中央高校付近）で川筋が二股に分かれた香東川を、現在の香東川に固定し、御坊川へ香東川の洪水が流れないようにした改修を行った西島八兵衛が記したものと云われています。この碑のレプリカは、改修した場所の香川町大野の香川中央高等学校の運動場の北西の道路沿いにあります。								
写真・図									
	写真 1		写真 2		写真 3				
解説文	<p>香川県高松市が誇る名園、栗林公園の商工奨励館の中庭に『大禹謨』と達筆で書かれた縦 58cm 横 20cm の石碑があります。これは、現在の高松発展の基礎を築いた治水・利水の偉人、西島八兵衛の筆なるものです。彼は、いまから約 380 年前、寛永年間に香東川の改修を行いました。私たちが住んでいる今日の高松市は、かつて江戸時代の寛永の頃までは香川郡大野の西（香川県立香川中央高校付近）で川筋が二股に分かれた香東川氾濫原でありました。一つの流れは、現在の御坊川の川筋で、もう一つは現在の香東川で、これを、寛永 8～9（1631～2）年、現在の香東川に固定し、御坊川へ香東川の洪水が流れないようにしました。彼はこの普請を行うにあたって自ら『大禹謨』と書して石に刻ませ、流れを堰止めた分岐点、（現在の香川中央高校西）に建てたのであります。現在のそのレプリカが、その近くに建てられています。</p> <p>禹は中国古代の大聖で、黄河の氾濫を治めて衆望を得、ときの天子瞬のあとうけて帝位につき、夏の国の始祖となった人で、「治水の神」として崇められています。この禹の遠大な理想、謨（はかりごと）を記述したものです。今日の高松市の繁栄を築いた西島八兵衛は、このほかにも約 90 のため池の築造など治水利水普請を行い讃岐の水を治めました。</p> <p>現在、香東川の治水を成し高松の安全安心を築いた西島八兵衛を思うとき、この人の仕事には品格を感じます。彼が築いたのは、堰堤や堤防という単なる構造物ではなく、地域の人たちへの思いが込められているように思います。</p>								
得られる教訓	行政は効率や数字だけを重視するのではなく、地域に暮らす人を思い、地域の将来を見据えて、正しい道に適合しているかどうかを基準として社会資本整備を考えるべきであることを教えています。								
教訓分類	被害防止	準備	災害対応	復旧・復興	自助	共助	公助	ハード	ソフト
時代	江戸時代以前	江戸時代		明治・大正	昭和 30 年代まで		昭和 60 年代まで	平成以降	

整理番号	香水3	新川の名の由来に残る治水対策		
災害種別	水害・治水	地震・津波	土砂災害	渇水・利水
場所	香川県高松市東山崎町、元山町			
見所・アクセス	高松市東山崎町、元山町には、新川の名前の由来に関わる春日川の跡地が今も田んぼの中に川らしき跡が残っています。跡地へは、高松自動車道の高松中央 IC から高架の自動車道路下の道路を東側に向かい春日川を渡った交差点を左折し、県道 10 号線を北に 1.7km 行ったところに 1m 程度の旧堤防があります。			
写真・図				
解説文	<p>新川は「なぜ新川なの？」という話をよくきかれますが、昔の治水対策にその由来があります。なぜ、新川って名前と呼ばれているのでしょうか。新川と呼ばれるには、新しく開削された川なのでしょう。実際、古い地図や今も田んぼの中に残る川らしき跡、現在の航空写真（写真1）などからわかります。</p> <p>高松今昔物語（建設省四国地方整備局香川工事事務所平成13年7月発行）の記載の中に、春日川に合流していた推定される新川の場所図（写真2）があります。図には新田開発前の海岸線の推定線とともに昔の新川の流れていた場所が描かれています。その図によると、新川は昔、久米池の南、久米山の西の東山崎町あたりから元山町で春日川に合流していたと思われます。今のような流れになった時期は、明らかではありませんが江戸初期だったと考えられます。</p> <p>新田開発については、1746（延享3）年に増田不意が著した「讃州府誌」の巻之一、寛永年間についての記載の中に、「十四年春、西嶋氏堤防を香川郡福岡、山田郡木太、春日の新田海濱に築き、潮汐を障げ、稲田と為す。之を新開と謂ふ。」と1637（寛永14）年に西嶋八兵衛が堤防を築いて新田開発をしたことが記されています。</p> <p>木太町郷土誌（平成7年12月1日木太町郷土誌を作る会発行）の松島干拓地周辺略図（写真6）によると、新川は、この江戸時代初めの新田開発や洪水から春日川下流域を守るため、同じ時期に造られたと筆者は考えています。このように上流から流れてきた洪水を下流地域を守るために新しい川に分離して海まで流す手法は、放水路方式として明治以降の治水対策として多く用いられています。</p> <p>2007年10月に筆者が撮影した航空写真（写真1）には、川らしき跡の2条筋跡が水路や道路として水田などに残っている様子がわかります。Googleの写真地図ではさらにはっきりわかります。また現地には写真3のように旧の春日川堤防が現在も一部残っています。春日川の堤防上から撮影した写真4には、旧堤防と水路の間の旧河道跡と思われる田畑が直線上に残っています。さらに農道となった旧堤防跡から現在の新川堤防を望む写真5からもその状況が確認できます。</p> <p>（次ページへ続く） →</p>			

(前ページより続く) →

是非、一度現地に行って2条筋跡を確認して見てください。

得られる 教訓	新川は、川の由来のとおり今日の春日川下流域の発展の基礎を築いた春日川の放水路であることを教えています。								
教訓分類	被害防止	準備	災害対応	復旧・復興	自助	共助	公助	ハード	ソフト
時代	江戸時代以前	江戸時代	明治・大正	昭和30年代まで	昭和60年代まで	平成以降			